

2
水
葉
子

12 9 1

報電本日

12 9 1

1

1
子

遺言

日本電報

株式日本電報電話社
電話 二二九六九番
四六九番

東京市全滅

(二日午前十一時三十分長野陸軍部より)

長野縣署情報ニルト東京全

市於此地震ノ横害ハ言證ニ純

シ大宴高樓ノ軒ヲ連テ倒潰

セルヲ全市交通止絶ノ有様ナリ

カ一日午後〇時三十分頃ヨリ

市内各所ニ大火災起リ其數

實ニ四十八箇所ニ及ビ慘憺ナル大黒燬

天ヲ驚カシ天日為ニ暗クシ

東京全市ヲ暴ク大火燬ノ海化

シ水道ハ漸絶シ消防夫ハ力盡

ハコト

大正九年九月三日 皇種護育
電通云云

日九二
日本電報

又テ予ノ看テ様ナク、阿鼻叫喚
物凄ク^{實ニ}生地獄ヲ現出セリ死
傷者多數ノ見込ナリ

(午前十時五十九分)

①火 燄全市ヲ熾大

一、一、口畏ク宮城危険一
(二、一時至入長鐘ヲ鳴ル由)

東京市内外所ニ延レル火災ハ午

八時早キ至合ニ至リ

全市ニ燃ハ度ガリ畏クモ

宮城ニ危険トナレリ

(午前十時三十分)

大正九年九月三日
通運急令
日九
電報

◎全市水道断絶

一浅草土三階の倒潰、

(三〇年可二町管野又為理由)

東京市八人全市三号水道断

絶七全号消火、術、地、震、依

り東京名物、浅草公園土階

に倒潰、近衛、是、西師團、急

速出動、消防之努力、不、今、大活

動、開始、

(年可三時五十分)

九六三
本電報

① 横濱の連日火災の惨状

一、死傷者数萬人、

(二) 長野支那(四)

神奈川縣警部部長より大阪

府知事之宛又横濱港健闘ノコ

ア此無線電信ニシテ一日午後十

時ノ情報ニ依リト

横濱市ハ一ノ市内ニ強震起リト共

ニ全市相次グ火災起リ目下連

日地獄ノ情況ヲ呈シ居レリ死傷

者ノ数ハ判明セザルニ数萬人

ヲ超ス見込ナリ

(三) 午前三時(五)

大正九年九月 皇種發句
日本電報

① 伊豆半島 沼津 市街 強震 下 全滅

震源地 富士火山 附近

(二) 午前 名古屋 屋敷 谷 吹飛

今日 地震 震源地 富士火山

城 一層 石 天 成 山 延 び 一 如

ク 伊 豆 半 島 沿 岸 一 裡 甚 疎 外

甚 大 一 熱 海 河 八 人 全 滅 一 死 者 数

百 名 一 出 一 中 田 縣 國 府 深 御

殿 場 駿 河 河 岸 甚 希 一 裡 上 甚 多 一 駿

河 町 一 如 一 八 滿 是 十 九 人 一 家 一 軒 一

無 一 有 様 一

(午前 四時 五分 著)

九月三日種智寺 九月六日
電通 三日六日 日本電報

① 蕨通 全線不通
東武交通 断絶

海路 联络ノ外ナシ

(二日午前三時名古屋支局発)

目下ノ東海海道線ハ津津以東
中央線甲有以東信越線ハ高所
以東、東北線ハ秋田子、栗橋以西東
京市内ニ通ル各線通線トモ不通
トナリ東京市ノ入ルト筋セハ海
路ヲ通ルノ外ナシ有様ナリ
目下電信、電流共不通ナリ

(二日午四時三十分)

大正九年九月五日 日本電報
電通急一七

◎本所 深川 全滅

(三日 長蛇 多量 発生)

東京市内の四十人 園所 大火 災
り本所 深川 全滅 火災
宮城 延焼 セントレツツアリ

(三日 奇 四時 十分)

◎横浜市 全滅

口安河内 知事 叔 所 頼

横浜 八 強 ト 全滅 セ ト 地震
火災 三 修 護 場 他 地 傷 者 我
萬 達 三 知 ト 交通 救 護 人 全
滅 飲 神 水 人 常 糧 品 運 大 大 泡
(つら)

大正九年九月一日三種時 本電報

陝之年收滞ヲ賴の上日午後十時
安河内神掌川野知事より出岐
大段折橋兵二束而知事并之
池上大段市長之先無線電信
り先か電文の間之レテ詳細人不

明ナリ

(二日午時五時五分)

◎ 迎子隧道大破

中央線開通絶望

中央線迎子隧道へ渡茶若茶

二破壞セタリ

(二日午時五時五分)

本邦電報三種

日本電報

◎東京會館里

宮城元也焼セリト

(二日廣島支局奔)

斯橋無線電信局予号鎮守
亦無線電信局之達也
依ハ東京市内ノ火災蓋之猛烈
トナリ遊

宮城之近焼セリトノ事ナリ而シ

子目下ハ無線電信モ不通トナリ

其ノ真偽ハ不明ナリ

(午前五時三カ)

本年九月三日
伊豆通急

日本電報

伊豆伊東一海浦

五戸流矢片破
死者二萬數千人

長生寺の塔

伊豆伊東下田方面六海浦

詭衣束の五戸流矢の死者六

五戸流矢の五戸流矢の死者六

所破壊住民二萬數千人死者

出たり下

伊豆伊東一海浦

大正九年九月三日
電通急六十一

四九
本報電報

◎◎◎◎◎
◎甲府市街大慘害◎

一日午前六時六分名古屋支局系
甲府市街ノ倒壊家屋百餘戸達シ死
傷者數十名ヲ出セリ

(一日午前六時三十分着)

◎◎◎◎◎
◎中央線三十五哩埋没◎

(一日午前六時十分長野支局系)
中央線浅川小山間其ノ他三十五
哩ノ線路埋没ニ全然不通トナリ

(一日午前六時三十分着)

大正九年九月三日
電報急十一
日本電報

◎三越丸ビル其他全焼◎

△四谷一部ヲ残スニシテ

(二日午前二時名古屋支局発)

二日午前二時大宮輕井澤長野ヲ經テ名古屋ニ達セル報ニ依リハ東京全市ニ漲ル猛火ハ今ヤ高城ニ亘燒シ炎ヲトシテ燃ヘソフアリ尚ホ

本所深川下谷神田各區ハ全燒シ今ヤ日本橋麴所ハ燃ヘソフアリ又上野駅危険ニ瀕シソフアリ目下燒失セル事ナル家屋ハ三越呉服店帝國劇場丸之内ビルディング帝國ホテル警視廳等ハ建築物ヲ始メ東京全市ハ四谷赤坂西區ヲ除ク外全燒ノ憂トナレリ。

大正九年九月三日 電報
電通急十三
日九本電報

◎宮城一部焼失シテ鎮火◎

(二日午前五時三十分 靜岡支局発)

帝都ノ大火ハ二日午前三時二十分ニ至
リ漸ク下火トナリ四谷ノ一部ヲ除ク
外殆ンド全市焦土ト化レ宮城モ巨
焼シタルガ軍隊ノ活動ニ依リ一部
ヲ焼失セルノミニテ鎮火セリ死傷
者多数ニ上リ東京近郊ノ被害夥
シキ見込ナリ。

◎横濱遂ニ全焼◎

横濱市ハ遂ニ全焼シタリ

大正九年九月十三日
電通急十四

日本電報

○槍ヶ嶽盛噴火

槍ヶ嶽ハ目下盛噴火シツアリ

○碓氷峠ヨリ大火炎ヲ望ミ得

(二日午前五時五分長野支局系)

帝都ノ大火災ハ通信機關杜絶ノ多

ク其慘狀ヲ詳報シ難キモ大火災ハ

碓氷峠ニ於テ東天邊カニ大火炎ヲ

ニ沖ン宛然夕陽ノ如ク只戰慄ヲ

催フスノミナリ

○御殿場ニ小津浪

御殿場附近ニ山崩起リ数千人死傷者ヲ出セリ

12-9-2

2-11-11

大正九年九月三日 九二
電通云々 日本電報

◎東北本線 鐵橋墜落、不通トナリ

(長崎より往來ニヨリ午時九時)

東北本線古海、常馬向鉄橋墜落
レ列車轉覆メ不道トナリ

(昔日午時九時ナリ)

◎ 慶知 警案部 情報

慶知縣警案部ニ達シテ情報

依テ駿河川ハ全滅、此駿河

向、延道ハ破壊ナリ又熱海川ハ

全滅此者古クモ名ヲ生ゼ、

御懸橋ナリ全市ノ半數以上人

家倒潰シ駿河川全滅

云々

大正九年九月三日 三種認可
電通 第六

日本電報

富士約請受会社ヲ及メ一戸ニ定奎
ニ建ツルナレ 震源地ハ天城山
トシテ

(二日午前九時五分)

① 沼津以東全然不通

(午前九時二十分静岡支局着)

東海道線沼津以東ノ列車連絡
未ダ恢復セズ南通目下ノ処見込
ニタズ

(二日午前九時十分着)

大光寺九時有難報
動通急ノ一七、

九、二、
日本國報

◎横濱ニモ大海嘯來

△海上難難者無救死傷

(百午前九時二十分靜岡支局奉)
横濱市ハ強震ト共ニ家屋倒壞ト同
時ニ海岸通ヨリ奔火并天町ヨリ伊
勢崎町ヲ越メ盡シ今ニ百午前二時
迄ニ目抜ノ場所ヲ全部燒キ盡シ住
民ハ碇泊中ノ倫敦丸ニ避難シタルモ
大海嘯來ノタメ死傷者無數ニシ
テ市内ハ阿鼻叫喚ノ状ト化セリ

(午前十時十七分着)

全九十九日
電通急十八

日大
本電報

東京市遂に糧道断

鐵道省上野駅烏有ニ故ス

(三日前九時四十五分長野支局系)

高崎前橋ヨリ傳ハラルル処ニ依レバ東

京市猛火ハ今ニ日午前九時鐵道本省

ヲ全燒シ又上野運輸事務所モ烏有ニ

似シ東京駅以テ飾レル丸ノ内ビルテイ

ングハ大地震ト共ニ倒壞シタリト傳ハラ

レ居レリ火災ハ倒壞セル為メ漏煙セシモ

ノオラント尚ホ東京田端方面ニ於テモ大

火災起リ目下盛ンニ燃ヘソフアリト野軍

輸事務所ニテハ管下各駅ニ電報ヲ系レ此

ノ際萬難ヲ排シテ一刻モ早ク食糧供給

ニ全カヲ盡スベシトハ司令ヲ發シタルト

ノ報高崎駅ニ到着セリト
(三日前十時三十分着)

大正九年九月百多種認可
電通急一九

九、二、
日本電報

◎箱根温泉地全滅ス

▽数萬ノ避暑行方不明

二日午前一時三十分古屋支局着電、

箱根温泉地ハ全滅シ同地一帯ハ目下大鳴
動ヲ續ケ居シリ数萬ノ避暑客ハ阿鼻叫
喚ノ巷ニ彷徨ヒ生死不明無救ノ見込ナリ

◎甲府市猛火ニ包マル

長野支局午後一時奔電

甲府附近ハ人家倒潰ト共ニ火災起リ炎々
タル猛火ハ今ヤ全市ヲ覆ヒテ燒キ盡サン
トシ物傳キ先景ヲ呈シ慘状言語ニ絶ス。

(午前十時四十五分)

大正九年九月皇種恐慌
電通急ノニ。

九二、
日本電報

① 死屍累々ノ慘状

コ食ヲ搜リ水ヲホメテ咆哮ス。

東京全市ヲ包マル猛火ハ何時終熄スルヤ
モ知レズ死屍累々トシテ其ノ間ニ食物ヲ
搜サリ水ヲ求メテ咆哮スル人々ハ全ク此
ノ世ノ生地獄其ノ儘ノ光景ナリ岳川ハ海
津ニ襲ハレ全城セリトノ事ナリ。

② 琦王大宮ノ慘状

武州大宮ニ於ケル倒潰家屋ハ數百戸ニ達
シ即此者十名ニ上リ東京行ノ列車ハ未ダ
通セズ大混雑ヲ極メ居シリ。

(午前十時四十五分著)

大正三年九月十一日
東京新聞

九二
日本新聞

田端町ニモ三燒ス

(二十午前十時長野支局系)

今二日午前五時三十分ハ猛火ハ益々
燃ハ廣ガリ東京田端町ニ三燒シ
ソフアリ

○本所深川(毛海)瀨薬來

(言長野支局系) 隅田川沿岸危険

二日午前一時東京本所深川ハ海
瀨ノタメ水馬ヲ蒙リ隅田川沿岸ハ
今ヤ危険ノ絶頂ニ達セリ

(二日午前十時四十五分)

12-9-2

3 -

本一九一九年九月三日三時發可
電通市由

九六
日本電報

昔司令長官官事傳令了りあり
右に對し我が伊集院長官官人深
其ノ厚意ヲ謝るる昔司令長官
ハ傳達ヲ依頼るるト共ニ其ノ厚意
ヲ本國政府ニ傳達するト答へ
る

(市由特別通信)

大正九年九月百三種認可

電通急電

九、二、日本電報

◎電通本社の臨時火災

(二日午前十一時長安寺の長所を)

臨時急電報

東京市の大震災及大火の被害
 京本社卜ノ通信八全不明トナレ
 カ聞ク及ニレハ本社の本館産街
 一大震災高樓下共倒潰之先永
 社長自ラ社員ヲ救ヒ通信之男
 ト共ニ東京、横濱、中ノト各
 方面ノ機関ヲ災害ノ詳報ニ力
 ヲ尽リト傳ヘス

(二日午後一時至三時)

大正九年九月三日 認可
電通社 意六

九二
日本電報

◎大段子救助船急改

(二日大段子の特報長所送也)

二日午前四時池上市長ヲ救メ方設市
會議員ハ急遽市會ヲ召集市會上
議事ニシテ會議ノ結果本午九時至
大段高船崩海内ニシテ第一回慰問
トシテ白米及梅干漬物等ニ百匁
ヲ積載シ横濱ニ出奔セシメたり

(午後二時より 至)

大正九年九月三日 三陸地方
電信急電之三

九月三日
日本電報

○高崎附近ノ取沙場

(二日高崎拜訪員)

東南ノ天ヲ遮ス大煙ニ年々ノ境則

区々ナルガ高崎地方ニ人伊豆大

島ノ大噴火ナリト取沙場ガソウ

(二日午後三時下着)

○本所 深川 神田 下村
○本所 橋五五 全急 絶望

(二日長崎方面の理由電報)

二日午前六時迄ノ情報ニ上野

附近ノ全ク大火ニ包マレ上野運送

事務所ハボウダー車内ニ電活線ヲ

引込テ急電執務ニ居レリ全急

(三時)

大正九年九月三日

聖通電

日本電報

絶地帯歸り元々本所、深川、神田、
下志、日本橋、五区、ニシテ、
カ石、川、色、方、真、火、燃、多、多、シ、
相、考、多、ク、比、較、的、損、害、ハ、少、シ

言午依之時十五

◎紅蓮ノ如ク、
信東平豊

東京方面大地震情况観察手記

×急行也、特以、
（鈴木記者）

軽井澤、
見、
同

東平、
如、
火、
天、
沖

南東、
包、
之、
秩、
父、
連、
山、
元

市、
猛、
火、
之、
包、
之、
辰、
ト、
其、
光、
景、
亦

岸、
口、
也、
快、
下、
言、
ク、
元、
音、
然、
之、
絶、
久

本報年九月三日種部

西通急五

日本電報

◎東京益々燃廣かる。

▽下谷ノ谷中一部ヲ残スノミ

二日大阪奔至急報

二日午前六時大阪運輸事務所ニ達シタル

報章ニ依レバ東京市ハ下谷区ノ谷中ノ一

部ヲ残スノ外尙盛ニ燃ヘツツアリ震動

ハ尙西三日間繼續スベシト云ハレ宮城モ

尙燃ヘツツアリ

(午後三時ニテカ着)

◎秩父連山大爆奔。

二日長野支局奔至急報

秩父連山ハ三十一日噴火ヲ為シタルカ一

日正午ニ至リ俄然噴煙天ニ冲シ大爆奔

ヲ為シタリ。

(午後二時三十五分着)

大正九年九月十三日
電報急電六

日本電報

◎東京全市鉄橋隊井落ス

交通全ク杜絶ス。

二日船橋無線高弁。

東京丸ノ内宮城ニ近接シタル火元ハ三越
呉服店ナリト云フ火焰ハ今尚盛シニ燃ヘ
ツツアリ船橋無線電信高ヨリ帝都ノ情况
視察ニ出セルモ未ク歸ルセズシテ消息不
明トナル東京全部ノ鉄橋ハ殆ンド全部墜
落シ交通杜絶ノ有様ナリ特ニ深川本所ノ
両区ハ惨美目モ當テラス (午後二時四十分)

◎阪神ヨリ食料満載汽船出奔。

二日大阪至急報

大阪神戸方面ヨリ食料品ヲ満載セル汽船
数隻横浜港ニ向ケ出帆セリ
(午後二時五十分)

大正九年九月三十一日
豊通台急電

九、二、
日本電報

◎小石川麹町ニ多少家屋残存

久通宮ノ慘狀ヲ報告

(二)長野支局(東京)

越後赤倉温泉細川侯別邸ニ御滞
在中久通宮殿下ノ御許ニ東京市
ノ慘狀ヲ報告スベク久通宮家事
務官ハ自動車ニテ大宮迄出デ同地
ヨリ第百〇七號列車ニテ赤倉ニ
向ヘ其ノ談ニ依レバ小石川麹町
附近ニ多少家屋ハ残存シ居ルノミニ
テ金帛ノ水道ハ水渴レ消防夫ハ其ノ
威力ヲ失ヒ家屋ハ焼クニ委セル外ナキ
状態ナリ

(三)

大正九年九月三十一日

西通右急ハ

九三、
日本電報

久南馬家ハ幸ヒ無事ナリシガ今鄭朱
即東京ヲ奔シタルヨリ其ノ後狀態
ハ全ク不即ナリ尚ホ震源地ハ伊豆大
島ナリト傳ヘラル云々

(三百年後二時三十分)

◎金市死骸累々

(二百長野支局彙)

東京金市ヲ覺メル如火ハ風無ケレバモ
燃ユルニ安セテ何時終熄スルトモ判ラ
ズ然カモ死骸累々トシテ到ル如ニ
山ヲ成シ其面ニ食ヲ搜ル我々電
味スル人々ヲ見レバ宛然生地獄ノ
有様ナリ

(午後三時三十分)

大正十一年十月九日 陸軍省
電通右急九

九、本三 電報

① 海軍救助艦巡査

食糧ヲ滿載シテ向フ

(三日吳芥電)

二日吳海軍鎮守府ニテハ食糧ヲ

滿載セル艦船ヲ羅茨民救助ニ向ハ

シム

(午後一時四十分)

12-9-2

4

四回

不正元九月日多積認可
電通特三

九二
日本電報

◎本社通信部活動

▽自動車編輯隊組織

東京本社昨夜遂ニ遭難光永本社長自
動車編輯隊ヲ組織シ百餘名記者ヲ
督シ或ハ輕井澤又ハ長野靜岡ノ諸所
面ヨリ無線電信ト連絡ヲ採リ死力ヲ
盡シテ詳報ニ努メ居リ。

(長野午後三時発)

在九年九月廿三種誌可

日本電報

當通依之元ノ一

◎東朝快電の詳報

其後信又ハ又ハ動リノ報章ヨリハ
 東京市街ハ山ノ手方面ヨリ本所
 深川下若木草ノ角ノ下河ノ方面
 カ最モ被害多クハ此屋ハ一軒トシテ
 満足トモナクハ大破壊又ハ倒
 潰、市民ハ悉ク戶外ニ在リ道路
 中央ノ路ノ空地ハ避難所トモナ
 ケ交通トモ難ク被害數十回トモ
 リト止ム事一時向毎ニ激動續々
 夜ニ至リテハ震害甚ク火災起リ數
 十箇所奔火ト折橋ノ煙火ノ漏急
 三回カニ返燒ト水道ノ火全ク断絶ト
 此レ

大正七年九月五日

電通社

日東電報

浦沿一方迄無一人等火ノ梅ノ
カ行ノ任云々ノ外ナク既ニ燒失

又連絡ノ

ノ高橋御殿

ノ宇野院ノ一部

ノ帝室林造管理局

ノ帝國大學

ノ内務省

ノ院務室

ノ警視廳

ノ高神大學

ノ共立女子職業学校

ノ帝國劇場

ノ有樂堂

ノ砲台工廠

555

大正九年九月三日

九二

電通社急一〇二

日本電報

八 目黒火災、東京、又火災、東京

八 東京、東京、神田、区、校

八 東京、東京、到、学校

八 日本電氣、東京、会社

八 東京、橋、区内、各、新聞、社、(朝日、国)

民、萬、朝、(中、央、時、事、)

讀、賣、愛、通、業、(ア、リ)

八 浅草、十、三、階

其他、銀行、会社、(高、地、民、安、無)

八 東京、二十、萬、戸、(及、び、段、々、灰、土、集、歸)

シ、(ア、リ)

八 神田、方面、丸、内、鐵、道、(掛、多、)

八 方面、日本、橋、(浅、草、十、三、階、火、災)

八 浅草、十、三、階、(入、り、火、災、又、出、り、火、災)

(ア、リ)

物積の出立状態目をアテミス

(110年給三時十五分着)

の東京市の取入

海上ビルディング倒壊

東京市中の巨り取入分布

普通人の一歩上電を東京市内

レド食糧品ヲ獲取し悉くノ外

ハ之レヲ許サズ海上ビルディング

市倒壊ヤリ糾起不明トセル

ビルディングノ人々ニシテ萬人以上

東京駅頭へ出立ル際ノ外

全滅ス

(二日午後三時十五分着)

在九年九月一日禮拜可

電通

日之本電報

◎各新聞社の健全度

日健五五八東京の〇〇〇

東京一市内〇〇〇新聞社の僅力
〇有東京〇〇〇

東京〇〇新聞社〇〇〇

朝日新聞、〇時事新報、〇

中央新聞、〇中央新聞、〇

後身新聞、〇朝報、〇六

新聞、〇新聞、〇新聞、

〇新聞、〇新聞、〇新聞、

〇新聞、〇新聞、〇新聞、

軍令部、〇新聞、

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

大正九年九月三日種痘可
南通云云

日九
本
尚
報

◎吉隆洲、我花入金燒

東至、市內吉隆洲崎、我宿、

各遊廊入金燒不

(午後三時三十分至)

◎大坂救護班

大坂市第一回救護班、三日大坂

單捲、下レテ又凡三白末

一千二百、得病五、樽、梅、平、五

五樽、降、軍、樽、拂、及、敷、長、一、好、意

二、三、堅、パ、ン、方、萬、食、方、積、込、之

車、車、方、及、揚、浪、之、運、込、ト、リ、セ、リ

(午後三時三十分至)

電通紙第一七

日本電報

○攝政宮御無事

攝政宮殿下ハ御無事ニ御覽
所ニ在リ也云々 兩陛下ノ御安否
ヲ安否也云々云々

(平日三時五十分ニ至ル)

○付子〇〇〇〇〇〇〇〇
親白殿

大段高船合我ハ三日神戸奔極
此ハ其ノ心ニ托(右連脱路)
五中暇ヲ親殿也云々云々トナ
レリ

(午後三時五十分)

大正九年九月五日 福認可

獨通

九二
日本電報

◎三井物産全減

三井物産本社八全減入

(午後五時五十分下着)

◎神戸鉄道局ノ救援

神戸鉄道局ニハ鉄道員保ノ

過難民救護ノ文ノ的ニテ各々東

第一區(トト)

(午後五時五十分下着)

◎飛行機ノ結末

今般尾震ノ文ノ東ノ事機也

一被害甚大ニ電信電話不

通ニテ海軍ノ航機ノ得ルヤ否

後岸敗也

三三

本邦身習習種認可
電通伝一丸

2.2.
日本電報

給子計ん又ノ部群機ニヨリ東
洋之向ケ出勤也ト云ハリ遠方
スズ道ヲ相利明スル

(午也三時五十分)

12-9-2

5-

大正九年九月一日

電通急電二二〇

日本電報

◎文、藏外三省毛焼失ス

既報、後大建築物ノ焼失判明セルモノ

一、文部省、

一、大藏省

一、外務省

ノ各省ナリ

◎御殿場死者七千余

御殿場ノ全滅セルコトハ既報ノ通りナル

が同方面ノ被害ノ重ナルモノハ紡績工場

ニテ強震アルヤ女工等ハ直千ニ閉鎖サレ

タル内ノ開放ヲ叫ビタルモ工場主ハ之ヲ

南カズ遂ニ倒潰シテ町民ノ命セテ七千人

ノ死傷者ヲ生じたり

大正九年十月二十一日
電通急報

日本電報

◎横須賀市モ全滅ス

二日大阪至急報

二日朝横須賀条佐世保海軍無線電信所ニ
送信中ノモノヲ大阪無線電信所ニ傍受シ
タル如ニ依ルト。

西陛下ニハ御喪状アラセラレズ横須賀市
ハ全滅ナリ成ル可ク多量ノ飲料水蓄蔵品
食料ノ配給ヲセフ

トアリ
(二日午後四時五十分着)

◎横浜ニテ判明ノ死者五萬

横浜市ニ於ケル死者今迄ニ判明シタルモ
ノハ五萬人ニ上リタリ。

(百千石四萬五千石)

大正九年九月百三種認可
電通急信ニ

九、三、
日本電報

①伊東ノ流失家屋五百

伊豆伊東ヨリノ情報ニ依レバ海津ノ為メ
同町ノ流失家屋ハ五百戸ニ達シタリ

◎電信電話全ノ不通、

大坂二日至急報

二日午後一時二十分大坂市内某官廳ニ達
シタル報章ニ依レバ東京中央電話局ト中
央電信局トモ共ニ類焼シ從ツテ東京ニ對
スル電信電話ハ全ク交通期ハ判明セズ

(午後五時三十分)

大正九年九月三日種田可

通急信三

日本電報 九二

○吳軍港ヲ軍艦急行

○醫科藥品食料ヲ満載シテ

二日吳至急報

吳軍港ニテハ東京横浜ノ大震災及び火災ノ罹災民救助ノ為メ醫科藥品及び醫科器具食料品并ハ海軍兵一千名ヲ軍艦天龍、平戸、扶桑、千歳 第十四駆逐艦 滿載シ本日午出港シ横須賀ニ向レリ。

(午五時十分迄)

○實見者ノ談話

マ久通宮殿下事務官談

二日長野支向至急報

越後赤倉温泉ニ御滞在申ノ久通宮殿下御一家ニ東京全市ニ亘ル震災ノ報ヲ負シテ来レル同宮殿下事務官ハ二日朝九時長野

（つゝ）

大正十一年十一月三日

九二
日 東 報

東 報 二 四

馱ニ到着シタルガ氏ノ談ニ依レバ

一日私ハ浅草ノ常盤座ニテ天勝ノ奇術ヲ

見物中強震ニ襲ハレ見物一同ノ共ニ飛ビ

出シタガ目ノ前ニ簾ヘタ十二階ハ見ル見

ル内ニ六階カラ直ニツニ折レ階位一体ニ

下敷キトナリ為茶若茶ニナツタ見ル階ハ

火ハ直チ燃ヒ廣ガリ私ハ一早ヤク宣家ニ

馳ケ付ケタルカ為ノ飛ビ出シ浅草公園ノ

廣場ニ出ルト水道ガ破裂シテ危リ電車が

停電セラ居リ火ハ八方ニ燃ヒ廣ガリ不火

池畔ニ出ツレバ向ヒ劍ハ猛火ニ包コレ物

博キ夫系ヲ空セラ居ル神田神社附近モ

路ナリ猛火ハ方ニ飛火レ上野ノ山ヨリ見

レバ帝國大塔ハ早ヤクモ燃ヒ上リ火勢ハ

物博ク駿河台デハニコラライニ後ツテ居

（つ）

本在九十九月百六日

電通急二五

日本電報

居ツタ、日本橋区方面及び浅草一面火災
タル猛火ニ包コレ内務省上警視廳も燃
ヒ出シタノヲ見タ、第一師團ヨリ軍隊が
出勤シテ消防及び罹災民ノ救助ニ努メテ
居ツタ私ハ櫻田門ヲ面リ板ヶ布坂見附
ヲ通ツタが此ノ方面ハ火勢未ダ猛烈デ
ハナカツタ屋根ノ瓦墜落シ石垣ハ崩
壞シテ危候甚ダシク步行スル事が出来又
一日ノ夜九時頃ニ幸シテ宮家ニ着ヘタガ
此ノ時ノ報ニ依シバ横須賀市及び横浜市
ハ全焼シ市中ノ半ハ海中ニ埋没シタト
聞エタ此ノ頃ハ殆ンド全市ハ猛火ニ包マ
レ只芝区青山ノ西方面ニハ火事ハナカツ
タが家屋ハ倒潰ハ甚ダシク大宮高樓ノ
倒潰モ見タ午三時頃攝政宮殿下ニハ

(ワシ)

大正九年九月廿三日附録可
電通号ノ二六

日本電報

自働車ニテ御遊難遊ハサレシモ其ノ御行
方ニ款キテハ私ハ知ラ又云々

(平本九曜主ド書)

◎浮多中◎
◎浮多中◎
◎浮多中◎

(二〇年休八時九も大段及局奉)

所決御行場ヲ二〇朝八時奉奉所

決取空學校決決ハ望中將ハ同

校學生一急ツ同乗セリ又途中各

務ヲ辞マカソリシ補給之為年

后二時十五分ハ大段城東練兵場

ニ着陸也道中意高御園司令部

ニ入リ

東軍力味近震突ノ情況ヲ報悉

ニ後御園長ヲ命ハ陸軍用也

ハツシ

全日本新聞 三巻 九二
豊田 三二七

日本 豊報

十萬斤米一千五百石多收量
海陸交通 運送セラルルハ上陸軍
大任命今書シ傳達ス

午後九時十五ト至
◎飛行偵察報告

波多建中尉ノ報告 仰園長ニ對
シテ東中ノ方面ノ状況報告スル如

一〇日午後一時五十分東京市内地

震中リ、市内倒壊房屋多ク
凡西人等ノ損害甚キヲ調査書

トナリ

ハ震害下同様ニ市内各所ニ火
災起リ神田区、日本橋区、

大正九年九月三日 三浦義一
電通社 二人

日本電報

橋也、浅草以下、右記の如くの特

種、其の如く、尚ほ、進、焼、七、以、下、

り、(一、百年、紙、二、時、十、五、分、被、査、)

三、重、要、官、庁、の、下、記、の、諸、事、に、関、し、

一、

由、物、者、費、△大、藏、省、△郵、政、省

帝、室、井、上、宮、理、局、△陸、軍、省、科

廠、△造、幣、廠、△東、京、高、等、

高、等、

学、校、

四、目、下、在、業、各、社、の、採、り、の、如、く、好、備

の、書、り、を、し、ん、じ、以、外、國、外、の、事、業

を、進、め、千、金、奉、還、各、部、に、奉、還、

大正九年九月廿九日
電通社之九

日北二
本電報

東京電報中七廿九日
動多聞故也

其陸軍部所理一部隊
內之好言備任之
勤事內衛生隊
民糧食分配其他
救護之圖也
全力之努力
力也

(午飯九時三十分)

大正九年九月百種認可 九六

日本電報

① 山本の刺サレトス

(二日午後八時松本より来)

確カレル所 確博スル處ニシテハ

山本の二日午後三時内岡組総親
任、或終了ニ水交社ニ引揚ゲシカ三

時頃数名ノ暴行現ル山本の

ヲ殺害セトシスルニ山本の夫ニ

爲メ巧道シテ其ノ妻ヲ誘キ

(午後八時三十分一書)

長正九年九月一日多種認可
電通為三々

日本電報

○震災実况視察

(名古屋支局系)

日本電報通信社名古屋支局員公今
二日午後三時汽船ニテ本社へ安否及
七震災実况視察ニトシリ

(二日午後九時十分)

○山葉辨東京弔問

(浜松茶煙)

日本樂器會社ノ大場專務行士八山
葉辨ヲ操縦シテ今二日朝十時三
十分東京高(リ)

(二日午後九時十分)

木正有... 電通... 日本電報

○東京... 公報

海軍省副官... 官長

宣讀

戒嚴令... 艦隊... 官下

取... 中止... 歸航... 橫須賀... 大改

要... 三港... 配置... 通信... 聯絡... 便

二供... 了

又船... 揚... 各... 鎮守... 長官... 克... 無

錄... 電... 信

及... 必... 早... 川... 沖... 軍... 艦... 了... 論... 造

之... 直接... 本... 大... 臣... 命... 令... 了... 妻... 了... 尚... 未... 了

之... 得... 不... 橫... 濱... 之... 一... 艦... 了... 迎... 航... 也... 了... 又... 至

ト... 七... 了... 通... 信... 聯... 絡... 補... 充... 之... 供... 也... 了... 市

中... 各... 所... 之... 火... 災... 起... 了... 途... 途... 了... 心... 心... 了... 了

心... 了... 了

大正九年九月一日三種認可

要通話三三

日九二

電報

市外へ通信聯絡断絶に至るに
船が急死せしむる食糧品其他の
供給也云

(二〇年九月卒了也)

◎二〇年八月下旬
二日朝人時所快奔して深き野

中尉志

東軍被害ノ状況ハ東軍市内ハ陸

軍大臣より傳達後ハ通

大が市外ニシテ四

ハ中ノ横濱ハ本日午

煙井ノ棲候ハ松ノ

中軍方面ハ甚シク

七八ノ見ハ相根以

二〇年ノ見ハ中尉

練兵場奔各務ノ

大正九年九月一日三種認可
電通石道三十四
日本電報

◎大地震因襲來り、

(大阪系連)

大阪則候所地震計ハ与テ日ニ類
々トシテ餘震ヲ感ジハ体ニ感ズル程
度ノモノモ數面アリ所爲ニ談ニ依ルト
比ノ餘震が無ケレバ大地震ガ因襲
來スル筈ナルガ餘震アルタメ今後ハ
些シタル兼ハアルマシ

◎大阪學生ノ慰問

大阪府農務課ニテハ中等學校學生々々
徒ノ牛ニ依リ畜畜好漁才法ヲ講究
スル事トナリ府下各高等女學生ヲ
シテパンビスケット仁丹等贈與セヌ

大正九年九月三日
電通急 三十号

九月二日
日本電報

食糧ノ麩尙袋ヲ作成セシメ三百年前
中ニ藝(同夕六時出帆ノ船ニラ續ク

(午後九時五十五分)

○戒嚴令爲メ入京不能

東京金市ニ亘リ戒嚴令ホカレ普通
人ハ一步ト雖モ東京市内ニ入レズ食
糧品ヲ提帶シテ入ルモノ外ハ之ヲ許
サ海軍ビルディング倒壊ス行衛不調
トナレルモノ一萬人以上アリ東京驛
ハ四五百ヲ降ク外全滅ス

(午後九時五十五分)

大東亜戦争の歴史
昭和二十六年

日本西報

◎新直社ハ白々ノミ残存

東京市内ニ在リタル新直社ハ僅カク東京
日々新聞ヲ降クノミニテ朝日時事
日本電報ヲ姓々全部焼失ス

◎丸ビルハ原形アルノミ

ト東飛行生ノ実見談

波多野中尉ニ同乗シ大改ニ着セル

東航空軍学校學生話ル

一日地震後尙モ無ク隊ノ無線電信

ニ神奈川県知事ヨリ横浜迄全市地震

ノ事又家屋倒壊シ大失死傷者

数萬ニ上ルトノ無線電信燈不夜ニ

入り東京上空ハ天ヲ黒シ軍隊全部

大正九年九月三日
電通急三十七
日本電報

出勤シ彦城ヲ中ニ暴撃ニ任ズ余ハ
八時四十名ヲ引率シ麹町出勤新橋
ヨリ東京ニ入りシガ地上ノ急列車ハ
又電車全部軌道外ニ飛出シ塵柱ハ
倒壊シ電燈ハ消ヘ眞ノ闇夜ニテ此
ノ闇中ニ泣キ叫ブ者幼ノ声悲慘ヲ極
ム斯クスル内又太キナ搖盪シ來リ去行
困難ヲ感ジタリ此ノ頃十二階モ倒壊
シ燒ケ丸ビルハ燒ケテ屋タガ原形ヲ
失メ丸ビルデインダ内ニ五百人余メ在
死者ヲ見タリ

彦城ハ僅ク外壁ニ損傷アル程ナリ、
赤坂ヨリ慶々園ニ遷ケテ官廳等ノ被
害大ニシテ帝室林野管理局ノ既ニ
燃ヘテ屋タ今朝ハ時東京系新聞ハ

不正なり身九月百三種設可た三
電通三十八 日本電報

四存、本郷ノ一部ヲ残シ全部焼失シタ
リ飛行機上ヨリ見タル東京市街ハ
尚木盛ニ猛火ニ包マレ居タリ横浜市
街ハ殆ド下何者ヲモ残サズ荒野ノ如
クナリシ又小船ニ避難セルモノハ海
瀬ノ夕ヌ後ハレタリ